

2020年10月25日

## 神への愛と隣人への愛

今日のマタイ福音書では、私たちの教会の中で頂点に置かれる教え「愛の掟」について説明されています。新型コロナウイルスとの共存を模索している私たちの神への愛と隣人への愛について、ご一緒に黙想いたしましょう。

マタイ福音書のイエスさまは「わたしが来たのは律法や預言者を…廃止するためではなく完成するために」（マタ5・17）来たことを強調します。律法と預言者、つまり旧約聖書全体が示す教えを完成するためにイエスさまは地上に来られたと説明したのでした。二千年前のユダヤ人にとっても、戒めや掟が多すぎて、ついに掟の中心にあるものが何であるのか、誰にも分からなくなっていたと言ってもよいでしょう。そこで律法の専門家はイエスさまを試す目的で、あえて「どの掟が最も重要でしょうか？」（マタ22・36）と尋ねました。しかしその答えは、いつの時代にも色あせることのない、真実の愛の宣言でありました。

はじめに、最も大切な掟は「心を尽くし、魂（精神）を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」（マタ22・37）という神への愛であることを示されました。続いて、神への愛と等しく重要な掟として「隣人を自分のように愛しなさい」（マタ22・39）という黄金律・隣人愛の掟を示されました。つまり、神を愛する人とは隣人を愛する人のことであり、隣人を愛する人とは神を愛する人のことである、神への愛と隣人への愛は決して切り離すことはできず、——二つで一つの愛の掟である——というイエスさまの教えの真髄を示されたのです。

「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです。」（1ヨハネ4・20-21）

コロナ時代の隣人愛、それはこれまでとは全く異なるアプローチが必要となっているように思われます。人と会う時に距離を取り、マスクをつける、どのような相手であるかにかかわらず、事前に自分の健康チェックを行い、互いを信頼し、いたわり合いながら共に時を過ごす。そこには想像力が必要ですし、本当に自分のように隣人を大切に思う心が求められています。無事に一日を終えられたことを神さまに感謝し、心を尽くし、魂を尽くして、日々を過ごします。今日ほど「神への愛と隣人への愛」が、重大な時代はないのではないのでしょうか。「聖霊による喜びをもって、みことばを受け入れ…主に倣う者」（1テサロニケ1・6）となり、強い信仰を育ててゆくことができますように心から祈りたいと思います。

さて、菊地大司教さまは新しいメッセージ「クリスマス・年末年始期間における教会活動の制限について」 (<https://tokyo.catholic.jp/info/diocese/40356/>) を発表し、クリスマス・ミサと新年のミサについての方針を示しました。要点は下記のとおりです。

- 1：事前に、入場制限をせざるを得ないことを一般に告知する
- 2：ミサ参加者は、事前に登録した方だけに限定する

人数制限と事前予約を実施することになりますが、立川教会の対応については追って、皆さんにお知らせできると思います。

また、新しい「立川教会ガイドライン」を更新しました (<http://www.catholic-tachikawa.jp/>)。

詳細は、立川教会ホームページをご確認ください。参加できる地域ブロックの指定は継続しますが、主日ミサの回数は三回となります。

そしてこのウェブ説教も、三月末から公開ミサ中止期間をとおして続けてきました。教会における新型コロナウイルス感染症対策の一環として、また困難な状況に置かれた信徒の皆さんを励ますという目的で「主日の説教」解説を行ってきましたが、公開ミサが再開されてから四ヶ月となります。少しずつ高齢者の皆さんも教会に戻りつつあるため一旦10月31日をもって休止といたします。今後も大きなお祝いや、節目には発信していきたいと願っています。新しい一週間をあわれみ深い主にささげて、はじめましょう。

カトリック立川教会 主任司祭  
東京教区 ヨゼフ 門間 直輝

●年間第30主日聖書朗読箇所：

- ① 出エジプト記22・20－26  
—答唱詩編—詩編18より
- ② 一テサロニケ書1・5c－10
- ③ マタイ22・34－40